



# 『下北ジオパーク応援Project』 (薬研編)

ものづくりでまちづくり実行委員会  
(青森県立むつ高等技術専門校)

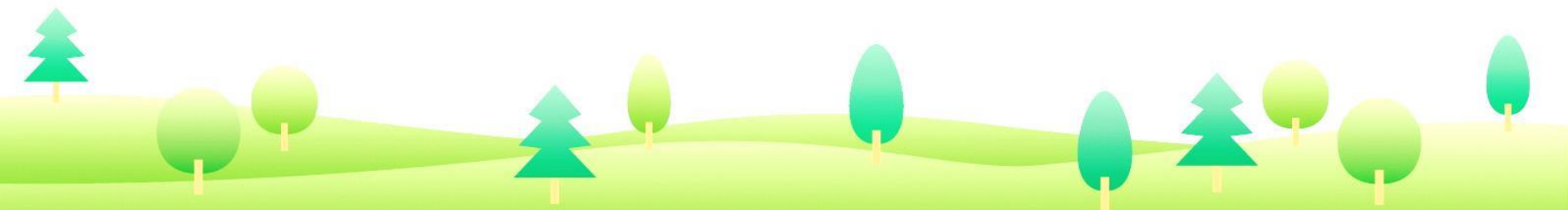
# 1 事業の名称

『下北ジオパーク応援Project』（薬研編）

※下北ジオパークの周知広報

# 2 事業実施期間

令和2年5月27日から令和2年11月25日まで



### 3 事業の目的

- ・平成28年9月に下北ジオパークが認定されてから4年目となり、今年度は再認定審査が行われる予定
- ・当実行委員会でも下北ジオパークの再認定を後押しする取り組みを実施
- ・むつ技専で実施している職業訓練の知識・技能を活かし、薬研ジオサイトで活動している団体等と協力連携しながら、どのようなものが必要か検討し、ものづくりをとおして地域全体の活性化につなげる。

# 下北ジオパーク応援Project (薬研編)

下北ジオパーク → 16のジオサイト



◇多くの方に薬研ジオサイトの魅力を伝えるにはどうすればいいか？

## 訓練生に聞いた「薬研ってどんな場所？」

学校で遠足に行く場所。秋の遠足なので溪流沿いの紅葉がきれい。大きい栗の木もある。

河童にまつわる伝説が残っている地域。奥薬研のレストハウスには河童の像がある。本当に河童がいそう。

散策コースに真っ暗なトンネルがある。溪流沿いの丸太ベンチが壊れている。

えっ薬研って恐山と同じカルデラだったの！薬研は湖でなく溪流なのに何でカルデラなの？

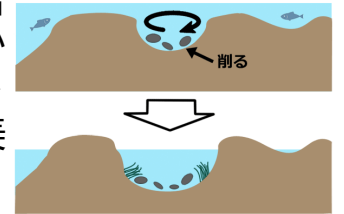
そのうちのひとつに…

むつ市薬研 → 恐山と同じカルデラ地形

川岸や海底の岩石は新第三紀中新世の緑色凝灰岩や火山角礫岩、火成岩類からなり、割れ目から湧出する温泉や河床のポットホール（おう穴）などの渓谷美をつくっている。

### ポットホールができる仕組み

石が波の力で、くぼみの中を動き長い時間かけて削ることでポットホールができます



薬研溪流



岩石を削ってできるポットホール

- ・ 下北ジオパークのジオサイトだという認識が薄い
- ・ 手つかずの自然と森林浴を味わう遊歩道が整備されているが、近年は整備が今一步というところ



# 下北ジオパーク応援Project（薬研編）

◇ 人がよく集まる場所へ「ジオサイトの説明看板」と散策コース上に「薬研溪流の風景をゆっくり楽しめる公園の付帯施設」を設置し、薬研ジオサイトの周知につなげていく。



薬研溪流周辺で、人がよく集まり、自然を満喫でき、風景をゆっくり楽しめる場所



薬研温泉カフェkadar



むつ市奥薬研修景公園レストハウス



薬研野営場

- ・ 薬研溪流は下北随一の紅葉名所であり、県内はもちろん、県外からも多くのお客様が訪れる観光スポット
- ・ 薬研温泉カフェkadar及び奥薬研にあるレストハウスを中心にイベントが開催されている。



# 下北ジオパーク応援Project（薬研編）

公園の付帯施設があまり整備されていないので、現状を確認するフィールドワークを行いながら、勉強会やグループワークを開催し、散策コース上に必要な施設を整備していく。

◇現状を確認する → 薬研溪流フィールドワークを開催

薬研ジオサイトは下北半島国定公園内にあるので…

- ・ 景観に対する勉強会  
（講師：弘前大学大学院地域社会研究科長 北原啓司 氏）
- ・ 国定公園内での開発行為の勉強会  
（講師：青森県自然保護課むつ市駐在 佐々木春雄 氏）



例えば…

屋根付きのテーブルとベンチで雄大な水の流れを正面から眺めることができ、絶好の写真撮影スポット。座って川の流れを聞くことでリラックスした穏やかな気持ちになれる。



建物などのハード面だけの整備では、観光人口増につながらない。

地域資源にストーリーを結びつける！

自然公園にふさわしい利用施設とは…

歩道、休憩所、駐車場、ビジターセンター等の整備を進めており、東屋等は利用施設の一部となっている。





# 下北ジオパーク応援Project（薬研編）

- ・ものづくりでまちづくり実行委員会で決まったジオサイトのリノベーション
- ・むつ高等技術専門学校木造建築科の訓練生が主体となってハード面を整備

その後の活用方法は…？

→薬研ジオサイトで活動している団体と協力・連携し、整備したモノを活用して事業を展開する。



Yプロジェクト株式会社  
(津軽海峡マグロ女子会)



イカす大畑カダル団

◇薬研溪流で行われた

- ・携帯もつながらないヒバの森で蘇りの森林ウォーク
- ・薬研でスノーシューウォーク&下風呂デトックス



◇薬研温泉カフェkadarを核とした取組み

- ・Yagen Grand Snowなど四季を通してカフェ周辺でイベントやワークショップを実施



- ・地域資源にストーリーと付加価値をプラスする。
- ・これを機会に地域で活動する団体とつながりを深めていく。



# 下北ジオパーク応援Project（薬研編）

下北管内の教育機関などでは、ジオパークを活用した地域学習や地域活性化を図る取り組みが行われている。



芦崎ジオサイトをテーマに大きな版画を完成させたむつ市立大湊小学校の版画クラブ

地域住民と小学生によるジオサイトの清掃活動

## ものづくりワークショップ(地域との連携)

大畑地区の子どもが、地域の一員として「大人とともに地域をつくる」存在として活動できるよう事業を計画（郷土愛の醸成を目指す）

むつ市立大畑中学校1年生と一緒にベンチを製作

ものづくりを通して地元の小学生にも事業に参加してもらい、東屋周辺に設置するテーブルベンチを製作



令和元年度は「むつ市立第一田名部小学校」で開催

子どもたちが将来、まちづくりプレイヤーになれるよう、事業に参加をして関心をもってもらう。

自分たちの住んでいる地域の事業に参加することで、地域への愛着をもち、郷土愛の醸成つなげる



## 昨年度(令和元年度)事業に参加した児童の感想 ものづくりワークショップに参加して

むつ市立第一田名部小学校  
6年 相坂 佑姫



私は、テーブル・ベンチ作りのような「ものづくりワークショップ」は体験したことがなく、とても楽しみでした。

まず最初に映像を見て、この活動が下北ジオパーク応援プロジェクトの一環として行われていることを知りました。作られたものが実際にジオサイトで使われているのを見て、地域に貢献できていて良いなと思い、更にやる気が出ました。

実際の体験作業では、ビス打ちと組み立てを行い、苦勞しながらテーブル・ベンチを完成させることができました。すごく達成感があふれ、めったにないとても良い経験になりました。

今回私たちが作ったテーブル・ベンチをボン・サーブでたくさんの人たちに使ってもらって、みなさんの役に立てたらうれしいです。そして、今回、この応援プロジェクトに参加させていただきありがとうございました。





# 下北ジオパーク応援Project（薬研編）

## 事業のスケジュール

| 区分                  | 開催日           | 場所                 | 内容  |
|---------------------|---------------|--------------------|---|
| 第1回実行委員会            | 令和2年5月27日（水）  | 青森県立<br>むつ高等技術専門学校 | 自己紹介・設置要綱・役員の選任<br>事業計画・予算・各団体の取組み事例発表                |
| フィールドワーク<br>（現地確認）  | 令和2年6月17日（水）  | 薬研ジオサイト            | 下北ジオパーク認定ガイドによるフィールドワーク<br>薬研渓流を実際に歩いて現状を確認           |
| 第2回実行委員会            | 令和2年7月21日（火）  | 青森県立<br>むつ高等技術専門学校 | 景観アドバイザー制度を利用した勉強会<br>講師：弘前大学大学院<br>地域社会研究科長 北原 啓司 先生 |
| ワークショップ<br>（地域との連携） | 令和2年8月25日（火）  | むつ市立<br>大畑中学校学校    | 薬研ジオサイトに設置するベンチ等を地元の中学生と一緒<br>に製作                     |
| 第3回実行委員会            | 令和2年10月8日（木）  | 青森県立<br>むつ高等技術専門学校 | 製作物の製作状況報告等   |
| 引き渡し式<br>お披露目式      | 令和2年10月30日（金） | 薬研ジオサイト            | 現地で製作物のお披露目及び引き渡し                                     |
| 第4回実行委員会            | 令和2年11月25日（水） | 青森県立<br>むつ高等技術専門学校 | 事業報告・決算報告<br>事業に参加した訓練生からの感想発表                        |

# 下北ジオパーク応援Project（薬研編）

## 期待される効果

- ・ ジオサイトに必要な工作物を製作することで、国定公園の付帯施設を整備できる。
- ・ 事業を通じて、今後、子どもたちが地域の担い手として地域の課題や問題を考えるきっかけとすることができる。（まちづくりプレイヤーの育成）
- ・ 地域が一体となって活動することで、地域全体の活性化や地域社会の再生につなげることができる。（まちが元気になっていく）

## ◇地域からの感謝によって、訓練生の学びの姿勢が向上

職業訓練の知識・技能をまちづくりに活かすことはできないか？」という発想から始まったのが「ものづくりでまちづくりプロジェクト」。取り組みを通じて訓練生にも 自分たちの技能が地域の役に立っているという自信が生まれ、表情が目に見えて変化していった。

### 昨年度、事業に参加した訓練生の感想



様々な地域活動を通じて、改めてものづくりの楽しさや日々の訓練の大切さをよく感じました。それまでの普段の訓練は、自分がやりたくて選んだ道で、作業することが楽しかったり、働いてから困らないようにと自分のために練習を重ねてきましたが、自分たちが造った物はそれを利用する誰かのために造った物であって、これから社会に出て働いたときも、私たちは誰かのために家を造る仕事をしていくので地域活動を通じて自分ではなく誰かのために造るという責任感があることを学びました。

これからも今までの気持ちを忘れず、責任感があることも考えて訓練に励んでいこうと思いました。



学びながら楽しもう！みんなでつくる下北ジオパーク